

県北 どらくろあ

第115号 2025年10月1日（毎月1日発行）

木次線ストロール⑮ 出雲大東駅

「美しい姫神の神社と ホタルが乱舞する川」

9月15日月曜日、今日は敬老の日。わたしには子どもがいなくて、お爺ちゃんと呼ばれることはないが、世間一般ではそういう年齢になったのだということを意識する。腰痛のため、遠出では杖を携行するようになってからはなおさらだ。

7時45分頃、車で庄原の自宅を出発。沿道の田は多くが稲刈りを

終えているが、標高の高い土地では、まだ黄金の稲穂が風に揺れている。高温続きで作柄が心配だったが、地元の農家の話では「まずまず豊作」、新米を食べるのが楽しみだ。

備後落合駅の手前を左折、油木川沿いの国道314号線を上ると、白い花の群生が見える。蕎麦畑だが、以前よりも面積が小さく

なっているように感じるのは杞憂だろうか。

9時40分頃、南大東駅に到着。ここで問題が発生、車を停める場所がない。昭和38年に、木次駅―出雲大東駅間に新設された“停留駅”なので、駐車場は考慮されなかったようだ。車であれば、駐車場のある木次駅が出雲大東駅を利用すればいい……。

県道24号線（松江木次線）を木次方面に150メートルぐらい行くと、沿道に分別ごみの回収エリアがある。その空地の端に、邪魔にならないように駐車させてもらった。



駅舎には郵便局や飲食店が入っている



加多神社の社殿の後ろには霊水の井戸がある

10時19分発の穴道行にひとり乗車。ベースのきすき色（黄色）にピンクをトッピングした「さくら」号だ。祝日なので、10人以上の乗客がいた。高校生ぐらいの女性客が多く、空道で山陰本線に乗り換えて、松江や出雲市に遊びに行くのだろうか。

6分程で出雲大東駅に到着。降車したのはわたしだけだが、相当数の人が乗り込んだ。山陰本線方面への利用客はかなり多いようだ。

駅ができたのは大正5年の籾上（ひかみ）鉄道開通時で、駅名は大東町駅。昭和9年に籾上鉄道が国有化され、木次線に編入されたときに、出雲大東駅に改称された。平成19年（2007年）に古い木造駅舎が解体されて、現在の駅舎になった。

出雲神話にちなんだ駅の愛称は「神阿多津姫命（かむあつひめのみこと）」、駅の西北にある加多神社の副祀神で、木花之佐久夜毘売（このはなのさくやびめ）の名前の方がなじみがあるだろうか。美しい姫神で、海幸彦・山幸彦の母神である。

現代的な駅舎には、飲食店（風味豊かな珈琲とそば・うどんの店「ふあーすと」）や郵便局（大東駅前簡易郵便局）が入っている。待合室も広々としていて、ゆっくりにできる。民間への簡易委託駅で、



発行：どら書房

（以下は非常に小さい文字で表示されています）

誌面デザイン: ROUTE183

協賛：九日市愛好会

